

からしだね書店便り

びっくり企画!!!! はじまります

(かたる人: 大頭眞一さん
絵: 森住ゆきさん)

子どものための神のものがたり

「2023年は、書店よりも新たな気持ちで…」
 と思っていたちょうどそのころ、書店のお客様でもある大頭眞一牧師から「からしだね書店だよりも連載してもいいですよ。しかも森住ゆきさんのちぎり絵つきで」という驚きの提案があり、私の第一声は「むり!むり!むり!むり!」でした。書店よりは、書き手もイラストもレイアウトも印刷もほとんど自前で、ある意味、好きなことを好きなように書いて、多少のミスや誤字にもぐっと目をつぶって、ひやひやしなながら発行しています。「でもまあ、勝手に作って、勝手に配ってるだけやし」と、とりあえず毎月発行できることを喜びにできあがるものなのです。そんな書店だよりも、大頭牧師と森住さんを巻き込んでしまっってよいのか…? いや、あかんやろ…?

「大頭牧師は文章担当なのでまだよいですが、森住ゆきさんのちぎり絵を再現するなんてとても無理です。ちぎり絵独特の風合いや色が台無しになってしまいます!しかもお金がないので、原稿料も払えません!」と、一度はお断りをしました。ところが、大頭牧師も森住さんも、「原稿料?そんなものいりません。ただがよいです。ただで、思いっきりおもしろいことをやりたい!」と、おっしゃいました。森住さんにいたっては、おそらく普通の作家さんだったら許し難いはずの、ペラペラのコピー用紙の上に大事な作品を載せるという大胆なチャレンジをものともせず…。大頭牧師と森住さんの人間のでっかさというか、(ちょっと天然入っているかもと思わせる)突き抜けたおおらかさというか、私もかくあらねばと、反省までさせられてしまいました。

というわけで、2023年1月号から1年間の新しい企画が始まります。

文章も絵も、とても人間味のあるあたたかで迫力のある、そして励まされるものになっています。

子どもたちに、そしてかつて子どもだった大人たちに、伝えたいメッセージがいっぱいです。

どうぞ、お楽しみに。(店長)

がんばれ、からしだね書店!
 焚き火牧師・大頭眞一です。
 ぼくはかねてからからしだね書店って、すばらしいと思っています。キリスト教書店の明るい希望を感じるのです。ぼくにできる応援はないかなあと考えていたところ、この企画を思いつきました。それで、「人生おもしろい方に三千点!」をモットーとする、お友だちの森住ゆき氏を引っ張り込んだ、というわけです。一年間どうぞお付き合いをよろしくお願いします。

京都信愛教会と明野キリスト教会の牧師、関西聖書神学校講師、焚き火塾代表。



おおず 大頭眞一

もりずみ 森住ゆき

ある日大頭眞一先生から、ご自身の翻訳書や御著書が(頼んでもいないのに)大量に送られてきて、困惑しつつもおおずと読み進めるうちに、いつしか心が軽やかに羽ばたくような解放感とともに、豊かで愛にあふれた「神の物語」を味わうようになりました。ですから大頭先生による「子どものための神のものがたり」は興味津々です。私には大きすぎるテーマですが、放課後の部活動みたいに気負わず自由に制作させて下さい。活動の「部室」を提供して下さい。からしだね書店さん、ありがとうございます。

グラフィック・デザイナーを経て和紙ちぎり絵作家に。著書に画文集「アメイジング・グレイス」「ぶどうの気持ち」「日めくり片隅の花でも」(いのちのことば社)、「思いを伝える和紙のちぎり絵春夏秋冬」(日貿出版社)がある。埼玉県熊谷市在住。